34. 癒着性イレウス治療に対する高気圧酸素療法の使用経験

石原　哲　太田潔志　伊藤康夫
（白鬚橋病院外科救急部）

【目的】イレウス治療に対し，高気圧酸素（HBO）療法は有効な治療手段とされている。今回，急性期の癒着性イレウス症例にHBOを行い，有効な手段と考えられたので報告する。

【対象と方法】平成3年4月より平成5年6月までの2年2カ月間のイレウス症例は201例であり，139例が癒着性イレウスと診断された。一般保存療法として胃内容吸引，イレウスチューブによる腸内容吸引，輸液療法を行ってきた。HBOを併用した45例につき，発症よりHBO開始までの日数，施行回数，腹部所見の改善までの日数などを検討し，更に非併用症例との比較検討を行った。使用機種は羽生田鉄工製KS－202－0型で，治療圧3.0ATAとし，治療時間は加・減圧を含め90分とした。

【結果】発症よりHBO開始までの期間は1日から13日，平均2.1日で，施行回数は，1回／3例，2回／1例，3回／23例，4回／7例，5回／2例，6回／7例，9回／1例，12回／1例で，平均回数は3.9回であり，腹部所見改善までの期間は平均4.5日であった。平均入院日数は10.9日で，42例（93％）が改善され，3例（7％）が無効で，この内2例は手術を施行した。これに対しHBO非併用症例94例では平均入院日数20.1日で，32例（34％）に手術を施行した。既往手術は虫垂炎手術が47例と最も多く，ついで胃切除術，胆嚢摘出術，結腸切除術，婦人科手術，その他がみられた。

【考察】HBO併用症例では解除率は93％で，非併用例（解除率66％）に比べ，入院期間の短縮，手術症例の減少がみられ，その有効性が認められた。特に高齢者症例，発症早期症例や，高度の腹膜炎が存在した手術症例，Polysurgery症例などに対しては，一般保存療法に加え併用すべき手段と考えられた。

35. イレウスに対する高圧酸素療法の検討ーとくに術直後のイレウスについてー

千見寺　勝[*1)]　斎藤春雄[*1)]　樋口道雄[*1)]　寺林秀隆[*1)]
太田重二郎[*1)]　古山信明[*2)]　丹沢秀樹[*3)]　川田欽也[*1)]
（[*1)]福生会斉藤労災病院　[*2)]千葉大学医学部中央手術部　[*3)]同　歯科口腔外科）

【目的】イレウス治療におけるHBOの有効性は，ほぼ確立されたといえる。すなわち，昭和53年に我々は，イレウス全体の70.9％に本療法は効果があり，とくに術後癒着性イレウスにあっては，その90.3％に有効であることを報告した。また，本療法ほぼ3日間施行を目安に，手術適応の決定がなされることも示した。今回我々は，あらためて最近の症例を検討するとともに，とくに術直後のイレウスについて検討した。

【対象と結果】平成元年から4年までに，我々は129例のイレウスにHBOを応用して，有効114例（88.4％），無効15例（11.6％）の成績を得た。そのうち16例が術直後のイレウスであり，その内訳は，改善例が14例（87.5％），手術を要したものが2例（12.5％）で，ほぼ良好な成績といえる。しかし，改善例の中で，順調に経過したものは14例中6例（42.9％）で，本療法施行3回までに何らかの改善傾向を示すものの，ニボー消失に長期間を要したものや，一たん良好な経過をたどりながら，再び狭窄症状を呈する症例や，改善傾向を得るのに6日を要した症例が2例もあり，その対応は容易でなかった。

【結語】術直後のイレウス，いうならば手術に連続するイレウスは，患者が手術侵襲から未だ充分に回復していない時期に発生する重篤な合併症であって，再手術は，患者はもとより，術者にとっても出来るだけ回避したい状況といえる。従って，術直後のイレウスは，その特殊性から，HBO施行3回を目安に手術適応をきめるということにしばられることなく，状況のゆるすかぎり，慎重な上にも辛抱強く，本療法を積極的に応用していく必要があると考えられた。